

拠点形成研究交流報告：海外研究拠点中国揚州大学動物科学院の修士学生との若手研究者交流事業

中国揚州大学動物科学技術学院と東北大学農学研究科は、2004年12月に部局間学術交流協定を締結し、職員・大学院生の学術交流を継続的に活発に実施した。この成果が認められ、2008年6月には大学間交流協定締結に発展した。大学間交流協定に基づき、大学院生の相互交流のため、揚州大学から大学院生の短期留学を毎年受け入れて、学生を対象とした動物科学に対する研究会、情報交換、見学などを行っている。昨年は、揚州大学から4名の短期留学生在が農学研究科を訪問し、農学研究科からは5名の修士学生が短期留学を行った。中国揚州大学は、JSPS 研究拠点事業で海外研究拠点を担当している。

海外研究拠点中国揚州大学の動物科学院から、修士1年学生の馬(マ) 銭波(チェン ボ) (Ma Qianbo)さん、姜(ジャン) 茂成(マオ チェン) (Jiang Maocheng)さんと修士2年学生の封(フォン) 飛飛(フェイ フェイ) (Feng Feifei)さんが、2017年9月17日から10月4日まで18日間の東北大学農学研究科応用動物学系への訪問し、共同研究題目「乳汁を用いた乳房炎早期診断技術開発と機能性素材探索」に関する若手研究者会議を開催した。彼らは揚州大学動物科学技術院に所属して動物飼養学を専攻し、ウシ第1胃上皮細胞の培養と牧草成分の発育に及ぼす影響の研究を行っている。分野訪問の際は研究内容の説明を受け、それぞれの観点から積極的に質問し、所属学生と親しく交流をしました。川渡農場には2泊しました。

初日は牧野研究科長を表敬訪問して自己紹介を行い、東北大学大学院農学研究科の説明を受けました。川渡農場を含め、応用動物科学コースに所属する全ての研究室を訪問し、教員ならびに学生達との交流を行いました。また、本学の大学院生(応用動物科学コースの各研究室から2-3名が参加)を相手に、彼らが中国で行っている研究をプレゼンテーションしてくれました。祝日は、機能形態学分野の学生が自らの研究内容の紹介を行い、交流を深めました。本交流が益々発展し、特に両大学の若い学生達が交流を通して、お互いを刺激し合える関係になることを期待したいと強く感じました。

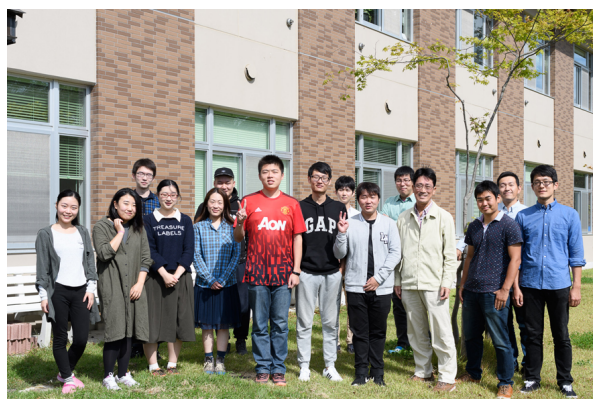
今回の若手研究者交流事業成果を元に、それぞれの研究分野に対応した拠点交流を行い、今後の共同研究への進展する事を願っている。また、今後も学生間交流の充実を図ることを再確認できたことより、共同研究題目「乳汁を用いた乳房炎早期診断技術開発と機能性素材探索」の若手研究者育成に関しては大きな進捗があった。本交流事業を実施できたのは、食と農免疫国際教育研究センターが主幹となっている JSPS 研究拠点形成事業で「国際交流を目的とした短期招聘留学生事業にかかる経費」に認められたお陰であり、改めて感謝いたします。また、応用動物学系職員と学生諸君の協力に感謝いたします。



牧野研究科長を表敬訪問



若手研究者交流セミナー



川渡農場訪問

CFAI センター長 機能形態学分野 麻生 久